

# Oracle Direct Seminar



# ORACLE®

## OracleASユーザのためのWebLogic Serverへの 移行セミナー

日本オラクル株式会社  
カスタマーサービス統括 アドバンストカスタマーサービス本部

**Oracle** Direct



# アジェンダ

- 製品概要について
- 構成とトポロジについて
- 管理ツールと開発ツールについて
- OracleASからWebLogicへのWebアプリケーション移行について
- Advanced Customer Servicesのご紹介

無償技術サービスOracle **Direct Concierge**

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# アジェンダ

- 製品概要について
- 構成とトポロジについて
- 管理ツールと開発ツールについて
- OracleASからWebLogicへのWebアプリケーション移行について
- Advanced Customer Servicesのご紹介

無償技術サービスOracle **Direct Concierge**


- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# Fusion Middleware 11g による統合

| Oracle Application Server                  | Oracle WebLogic Server              |
|--|-------------------------------------|
| Oracle Application Server 10g (9.0.4.x)    | Oracle WebLogic Server 9.x          |
| Oracle Application Server 10gR2 (10.1.2.x) | Oracle WebLogic Server 10.0         |
| Oracle Application Server 10gR3 (10.1.3.x) | Oracle WebLogic Server 10gR3 (10.3) |



| Oracle Fusion Middleware 11gR1 (11.1.1.x)   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>- Oracle WebLogic Server 11g (10.3.x)</li><li>- Oracle Web Tier Utilities 11g</li><li>- Oracle Identity Management 11g</li><li>- Oracle Portal, Forms, Reports and Discoverer 11g</li><li>- Oracle SOA Suite 11g</li><li>- Oracle WebCenter 11g</li><li>- etc..</li></ul> |

- WebLogic Server をベースとした OracleAS との統合

# WebLogic11gとOracleASの差異の概要

- 製品の概要レベルでの違いを下表に示します。
- オラクルのJavaアプリケーション・サーバ製品としては、現状 WebLogicを主として推奨いたします。

|                         | Oracle WebLogic 11gR1                  | OracleAS10g R3<br>10.1.3.x                               | OracleAS10g<br>9.0.4 と10.1.2  | Oracle9iAS<br>9.0.2と9.0.3                         |
|-------------------------|--|--|---|---|
| 対応<br>JavaEE/<br>J2EE仕様 | JavaEE5                                | J2EE1.4<br>(EJB3.0など、JavaEE5仕<br>様の一部に準拠)                | J2EE1.3   | 9.0.2はJ2EE1.2<br>(一部J2EE1.3)<br><br>9.0.3はJ2EE1.3 |
| JDKバージョン                | JDK1.6                                 | JDK1.5<br>(JDK1.6に変更可能)                                  | JDK1.4  | JDK1.3  |
| 同梱される<br>Webサーバ         | Oracle HTTP Server<br>(Apache2.2ベース)   | Oracle HTTP Server<br>(Apache1.3ベースと<br>Apache2.0ベースを選択) | Oracle HTTP Server<br>(Apache1.3ベース)<br>10.1.2よりApache2.0<br>ベースも選択可能 | Oracle HTTP Server<br>(Apache1.3ベース)              |
| その他対応す<br>るWebサーバ       | Apache<br>MS IIS<br>Sun Java WebServer | Apache<br>MS IIS<br>Sun Java WebServer                   | Apache<br>MS IIS<br>Sun Java WebServer                                | 無   |

# Oracle WebLogic Server 製品のエディションについて

## WebLogic Server Standard Edition

- WebLogic Server
- Development Tools
  - TopLink
  - JDeveloper/ADF
  - Weblogic Workshop
- No Clustering
- Oracle JRockit
- Oracle HTTP Server
- Oracle Fusion Middleware Control

11g Add & New

※Oracle JRockit JVM はWebLogic 全 Editionで利用可能です

## WebLogic Server Enterprise Edition

- WebLogic Server SE
- +
- Clustering
- Oracle Diagnostics Pack for Oracle Middleware
  - JRockit Mission Control
  - Application Diagnostics for Java
- その他過負荷保護機能など

## WebLogic Suite

- WebLogic Server EE
- +
- IAS EE (Forms, Reports, ...)
- Forms, Reports ...for WebLogic
- Oracle Web Cache
- WebLogic Operations Control
- WebLogic Real Time
- Coherence Enterprise Edition
- Management Pack for Coherence

11g Add

エンタープライズ・アプリケーションおよびサービスの構築と実行のための、世界最高クラスのアプリケーション・サーバーです。

最新のJava EE標準を実装、各種開発フレームワーク、ツール類を提供。優れた管理機能や、最新WebLogic Serverの機能を利用し、さまざまな高性能システムを構築可能です

アプリケーションおよびサービスについて高可用性、優れた診断機能が必要な場合に最適なアプリケーション・サーバーです。

Standard Editionのあらゆる機能や利点に加えて、実証済みのクラスタリング・テクノロジー、診断/解析ツールが含まれています。

安定したパフォーマンス、スケーラビリティおよび管理性を、単一の統合されたアプリケーション・サーバー機能に集約したものです。

Oracle WebLogic Suiteは、WebLogic EEのライセンスに含まれる全機能に加え、JVMインスタンスの自動管理機能や広大なメモリグリッドが構成可能な製品、Oracle Coherence、JVMのガベージコレクションをユーザー自身がコントロールする事が可能にしたWebLogic Real Timeが含まれています。

# (Limited) WebLogic Server Basic

これらのライセンスをお持ちのお客様は、WLS Basicの利用が許可されます



- OC4J から WebLogic Server へのアプリケーションの移行
  - 既存の OracleAS SE/SE1/EE and Forms/Reports ライセンスにて利用可能
  - 追加費用なし
- WebLogic Basicとして必要最小限のWebLogic Server機能のみを提供
  - OC4J相当のJava EEサーバとして必要最少限の機能のみ提供
  - 11gの全ての機能を利用するためのアップグレードパスは「WebLogic Suite」
  - 詳細: [http://download.oracle.com/docs/cd/E16340\\_01/doc.1111/b55933/wls\\_basic.htm](http://download.oracle.com/docs/cd/E16340_01/doc.1111/b55933/wls_basic.htm)
- マイグレーションONLY
  - 既存のOracleASシステムの拡張、インスタンス追加はNG

# アジェンダ

- 製品概要について
- 構成とトポロジについて
- 管理ツールと開発ツールについて
- OracleASからWebLogicへのWebアプリケーション移行について
- Advanced Customer Servicesのご紹介

無償技術サービスOracle **Direct Concierge**

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE



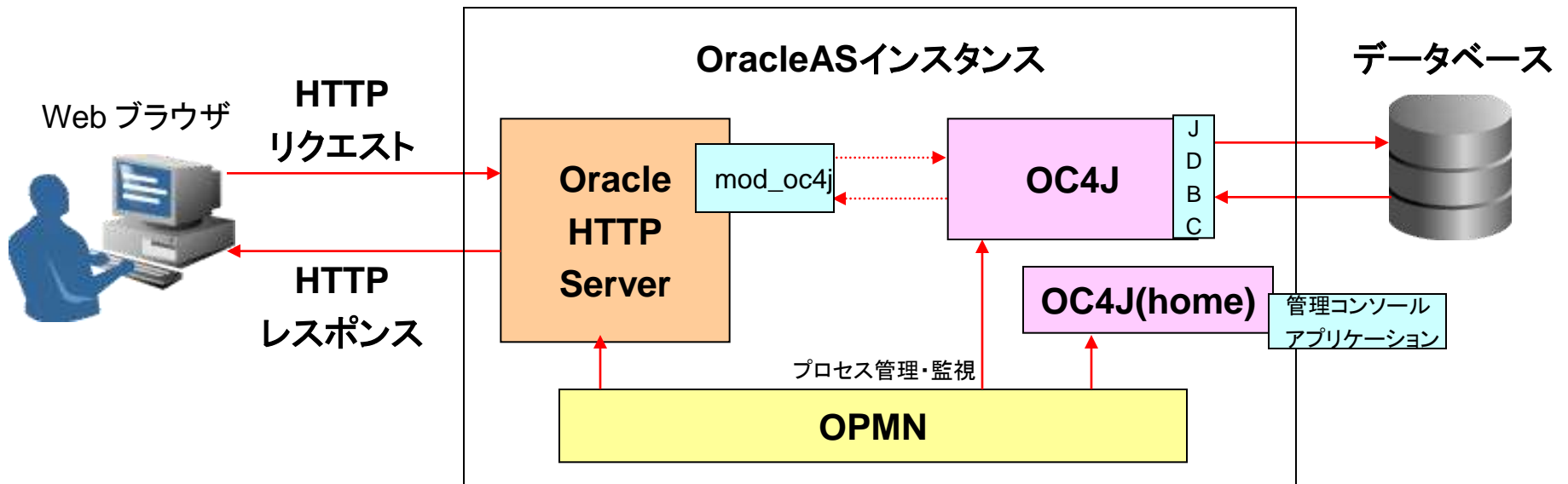
# 構成要素とトポロジについて

- WebLogic ServerとOracleASでは、アプリケーション・サーバの各種構成要素や管理する単位やコンセプトが根本的に異なっています。
- そのため、例えば「OracleASでいうXXXは、WebLogicでは、YYYYに相当する」、というようなマッピングは完全には不可能で、無理にマッピングして理解しようとするとかえって混乱します。

OracleASからWebLogicの移行にあたっては、両製品の構成要素や概念の違いを理解した上で適切な構成やトポロジを検討する必要があります。

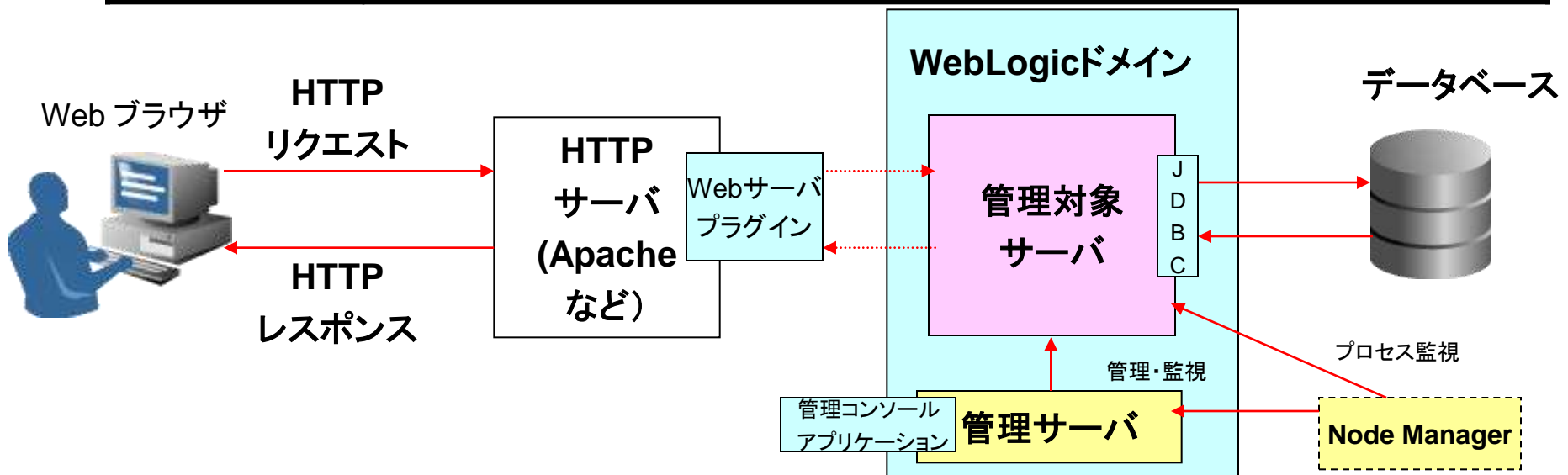
# OracleAS10g R3 10.1.3 の基本構成要素

| 構成要素               | 説明  |
|--------------------|---|
| OracleASインスタンス     | アプリケーションサーバの管理単位。インストール都度に構成される。<br>インスタンス範囲が複数の物理サーバを跨ぐことはない。  |
| OC4J               | J2EE1.4準拠のアプリケーション・サーバとなるJVMプロセス。<br>インスタンスに複数含めることができる。デフォルトのOC4J homeでは管理コンソール(AS Control)アプリケーションが動作 |
| Oracle HTTP Server | ApacheベースのWebサーバ。mod_oc4jによりOC4Jにリクエストをルーティングする。<br>OHSは、異なるインスタンスのOC4Jにルーティングすることも可能。                  |
| OPMN               | OC4JやOHSのプロセスを起動・監視するプロセス。インスタンスに必ず一つ存在する。  |



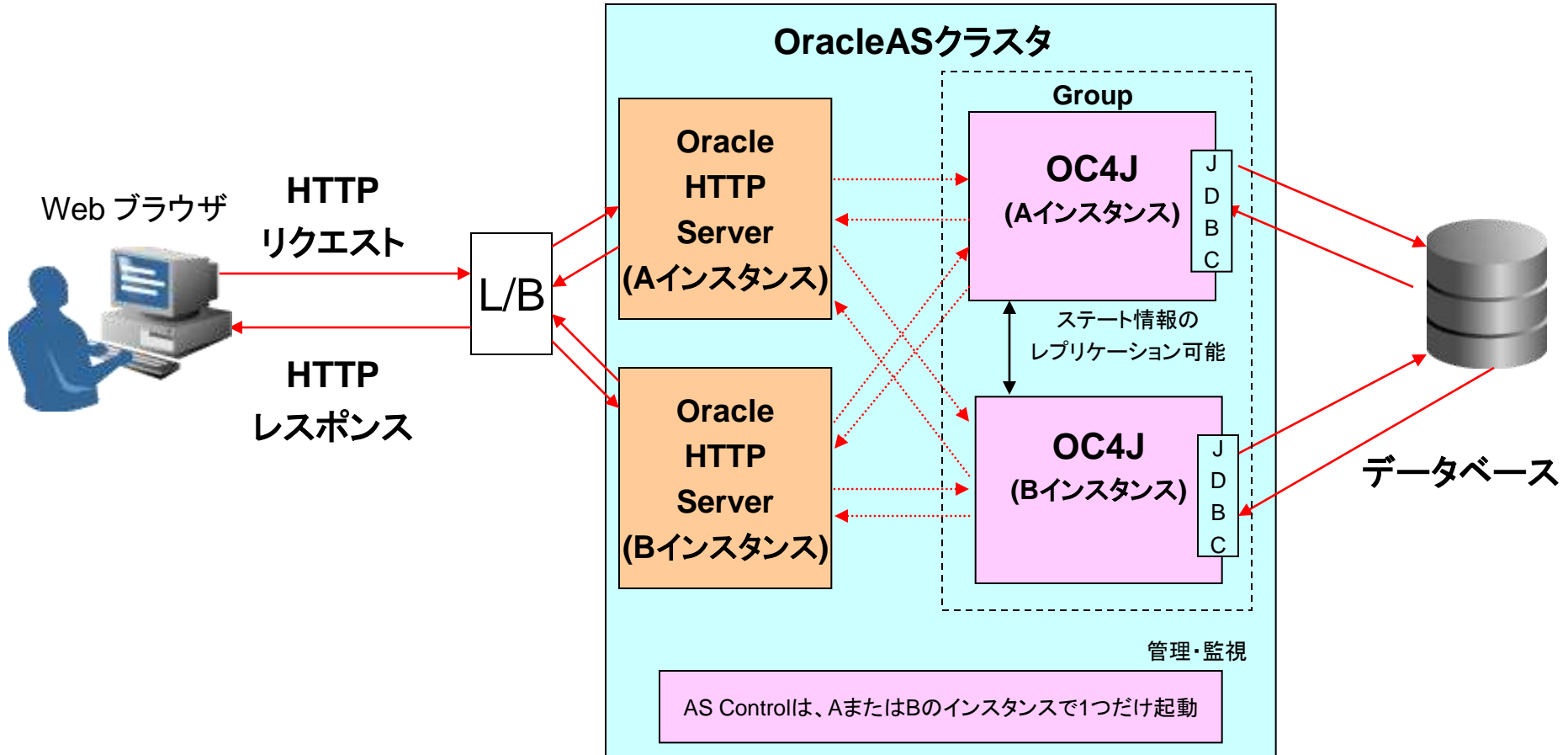
# Oracle WebLogic Serverの基本構成要素

| 構成要素            | 説明   |
|-----------------|--|
| ドメイン            | アプリケーションサーバの論理的な管理単位。  |
| 管理サーバ           | GUIベースの管理コンソールアプリケーションを動作させるJVMプロセス。ドメインには必ず1つだけ存在する。                            |
| 管理対象サーバ         | JavaEE5準拠のアプリケーション・サーバとなるJVMプロセス。<br>ドメイン内に、同一または異なるサーバ上で動作する管理対象サーバを複数含めることが可能。 |
| Webサーバ<br>プラグイン | ApacheやIISからWebLogicにリクエストをルーティングするためのモジュール。<br>※管理対象サーバ自体がHTTPリクエストを受付可能        |
| Node Manager    | 管理サーバや管理対象サーバを起動・監視するJavaプロセス。必須ではない。物理サーバ単位で構成。                                 |



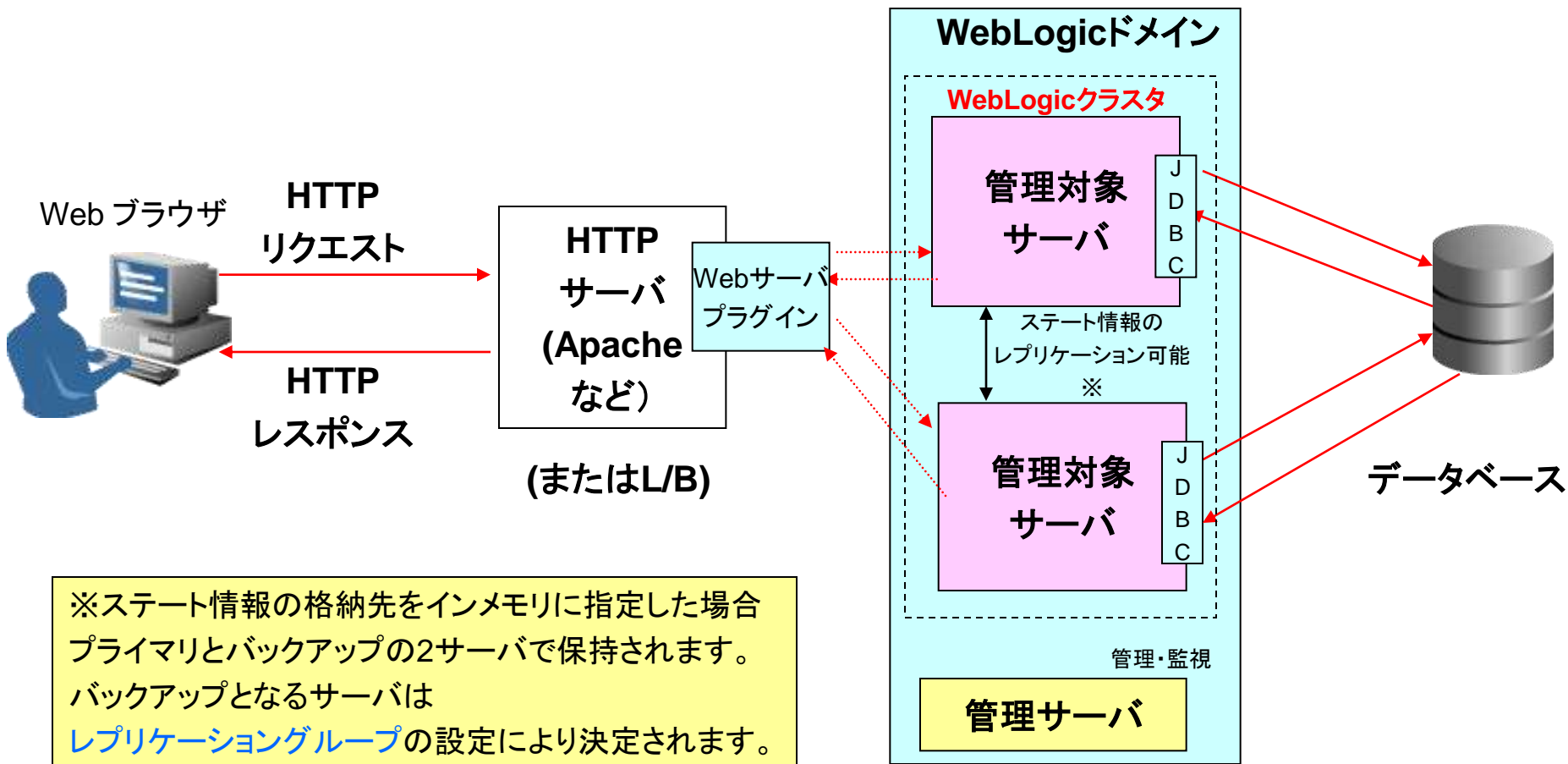
# OracleAS10g R3 クラスターのトポロジ(例)

- OracleAS10g R3では、複数のインスタンスをまとめてクラスターとすることができます。
- クラスター内で、さらに各インスタンスのOC4JをまとめたGroupを複数作成できます。
- グループ単位で一括操作が可能で、負荷分散や可用性を向上できます。



# Oracle WebLogic Serverクラスタのトポロジ(例)

- WebLogicではドメインの中に複数のクラスタを構成できます。
- クラスタを構成すると、可用性の向上、負荷分散や管理タスクの一括操作が可能です。
- この機能はWebLogic EEから利用可能です。



# WebLogic Server を構成する要素

## 物理マシン

### ドメイン

- WebLogic Serverの管理単位
- 物理マシンをまたいで構成することも可能

### マシン

- WebLogic Serverをポートしている物理ノード情報
- 管理サーバ等からのリモート管理などに利用

### 管理サーバ

- 1ドメインに1つ配置

### (AdminServer)

- Administration Consoleアプリ、SNMPエージェントが稼働

### 管理対象サーバ

- ドメインにある管理サーバ以外のサーバ

### (ManagedServer)

- アプリケーションの実行環境としてのみ稼働

### ノードマネージャ

- 1つの"物理"マシン上に1つ配置
- 1物理マシン上にある全てのドメインを制御
- マシン上のサーバの生死監視、リモート管理
- ダウン時の再起動試行、サーバ障害発生時のサービス移行

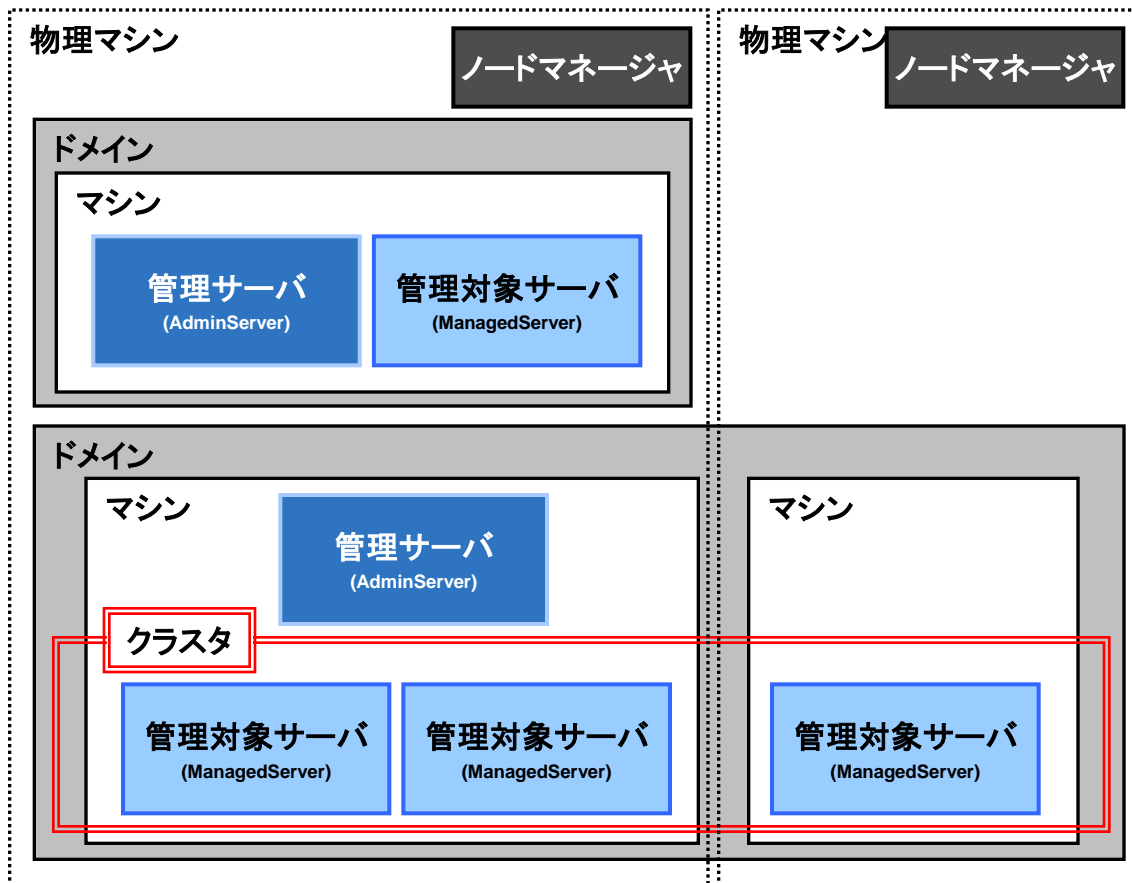
# WebLogic Server の構成例

- 最小構成

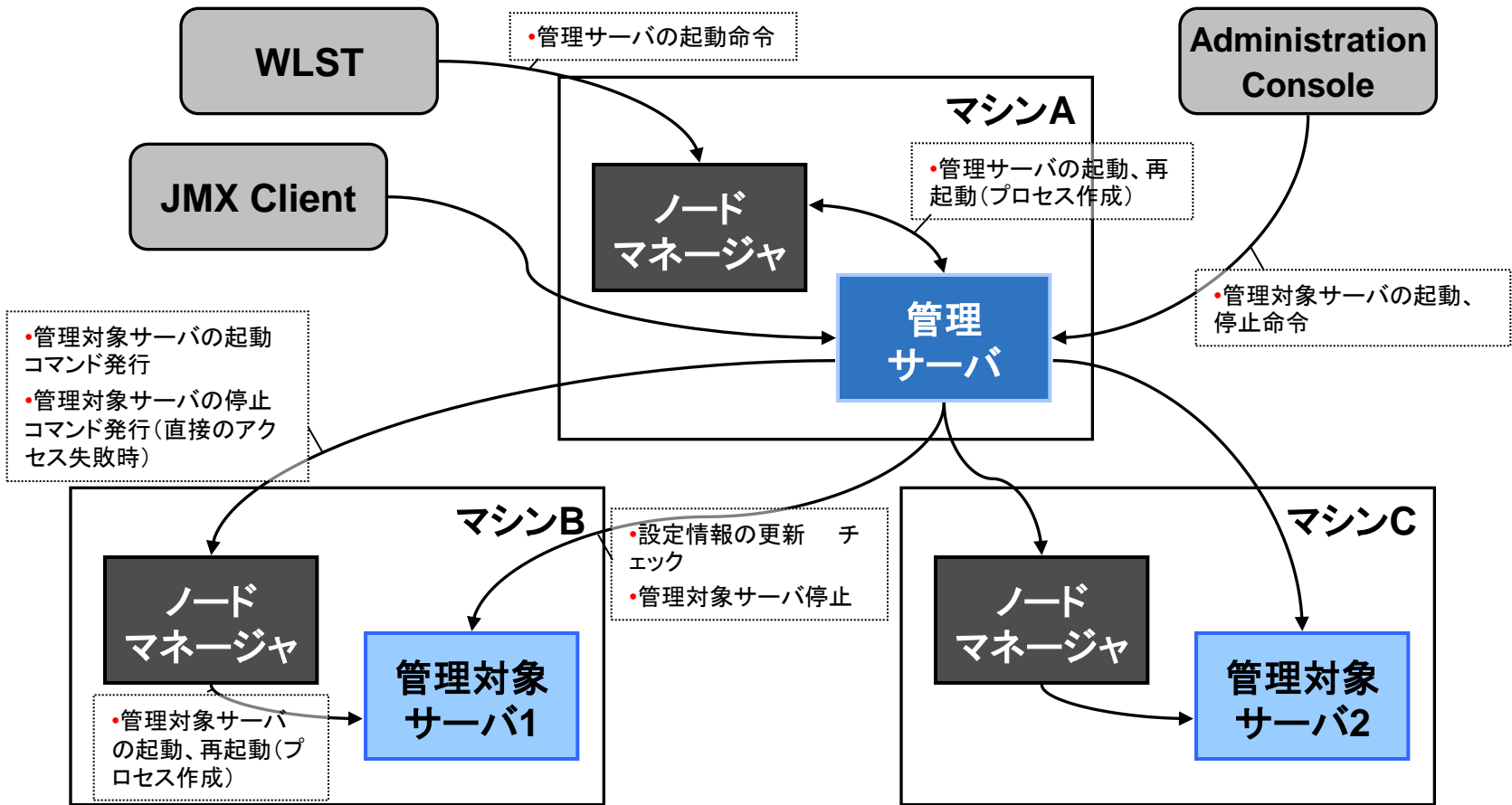


- ドメイン作成時に管理サーバを作成
- マシンは必要に応じて管理コンソールで作成

- 多様な構成



# ノードマネージャとサーバの通信





# JDBCドライバについて

- OracleASでは、インストール完了時点でOracle Databaseに接続可能なバージョン10gベースのOracle JDBCドライバをデータソース定義で使用
  - TYPE2 のJDBCドライバ
    - OracleのOCIライブラリを使用する
  - TYPE4のJDBCドライバ
    - Thinドライバとも呼ばれ、JDBCドライバだけでOracle Databaseに接続する
- WebLogic Serverでは、バージョン11gベースのOracle JDBCドライバのTYPE4をデータソース定義で利用可能。(推奨)  
TYPE2を利用する場合、別途OCIライブラリをパスに追加する。

# JDBCデータソースについて

| WebLogic Server  | OracleAS10g R3  |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>● OracleASのように「マネージドデータソース」や「ネイティブデータソース」のような種類わけは無く、移行においてはその意識は不要</li><li>● データベース接続に必要な情報は、「データソース」として定義する。OracleASのように「データソース」と「接続プール」を分けて定義しない。</li><li>● 複数のデータソースをまとめて一つのデータソースとする「マルチデータソース」を利用可能。主にOracleRAC接続で活用される。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>● 「マネージドデータソース」や「ネイティブデータソース」といった種類があり、基本的に「マネージドデータソース」を利用する。</li><li>● データベース接続に必要な情報を「データソース」と「接続プール」に分けて定義する。</li><li>● WebLogicの「マルチデータソース」に相当する機能は無い。</li></ul> |

OracleAS10g R3からWebLogic Serverへの移行においては、上表の内容を理解し、データベース接続情報をWebLogic上で適切に設定する必要があります。

# アジェンダ

- 製品概要について
- 構成とトポロジについて
- 管理ツールと開発ツールについて
- OracleASからWebLogicへのWebアプリケーション移行について
- Advanced Customer Servicesのご紹介

無償技術サービスOracle **Direct Concierge**

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# 管理ツールと開発ツールについて

- WebLogic ServerとOracleASは、両製品ともWebベースの管理コンソール・アプリケーションを利用可能で、アプリケーション・サーバの構成やアプリケーションのデプロイ、コンテナに対する各種設定など、ほとんどの管理操作はこの管理コンソール・アプリケーションで実施できます。
- WebLogic Serverでは、WebLogic Scripting Tool (WLST)というスクリプトで管理操作を行えるユーティリティが利用可能です。OracleASでは、WLSTに相当するものではありません。
- 開発ツールにおいては、WebLogic Serverでも OracleASでも、それぞれのJava仕様に対応したものであれば、どのようなツールでも利用することが可能です。

**OracleAS10gR3からWebLogic10.3への移行において開発ツールという観点では、もし現在 Oracle JDeveloper10g 10.1.3.xを利用している場合 Oracle JDeveloper11gへ移行することをご検討下さい。**

# OracleASの管理ツール

- OracleAS10g R3に対する各種管理操作を行うには、下表のツールを使用します。
- 下表以外に、管理APIとして様々なMBeanを利用可能です。

| 管理タスク                | ツール名                       | 概要   |
|----------------------|----------------------------|--|
| インスタンス作成<br>(インストール) | Oracle Universal Installer | OracleASインスタンスをインストールする。   |
| インスタンス作成後の<br>管理操作   | Application Server Control | Webベースの管理コンソールアプリケーション。<br>OC4J homeが起動している場合、利用できる。<br>インスタンスまたはクラスタにおける各種管理<br>操作やモニタリングを行える |
|                      | opmnctl                    | OC4JやOHSの起動、停止、監視  |
|                      | admin_client.jar           | アプリケーションのデプロイやアプリケーション<br>の開始・停止を行うためのJavaライブラリ。<br>Javaコマンドで実行                                |
|                      | OC4J Ant タスク               | アプリケーションのデプロイやアプリケーション<br>の開始・停止を行うためのAnt Taskライブラリ  |
|                      | dmstool                    | OracleASの各コンポーネントやアプリケーション<br>の性能情報を取得   |

# Oracle WebLogic Serverの管理ツール

- Oracle WebLogicに対する各種管理操作を行うには、下表のツールを使用します。
- 下表以外に、管理APIとして様々なMBeanを利用可能です。

| 管理タスク            | ツール名                           | 概要   |
|------------------|--------------------------------|--|
| ドメイン作成           | Configuration Wizard           | ドメインの作成で使用する。<br>GUIモード、コンソールモード両方サポート   |
| ドメイン作成後の<br>各種構成 | 管理コンソール                        | Webベースの管理コンソールアプリケーション。<br>管理サーバが起動している場合、利用できる。<br>ドメインにおける各種管理操作やモニタリングを行える。 |
|                  | WebLogic Scripting Tool (WLST) | Jythonベースで管理タスクを実行できるスクリプト・ツール。プラットフォームに依存しない。管理サーバが起動していなくても利用できる             |
|                  | weblogic.Deployer              | Javaコマンドでアプリケーションのデプロイを行えるユティリティ   |
|                  | wlserver Antタスク                | ドメイン作成やサーバ起動を行えるAnt Task   |
|                  | wlconfig Antタスク                | ドメイン構成タスクを行えるAnt Task  |

# OracleAS と WebLogic Server の管理Console

## OracleAS

- Application Server Control
- OC4J:home にデプロイされたアプリケーション
- <http://<hostname>:<port>/em>

ORACLE Enterprise Manager 10g  
Application Server Control

### クラスタ・トポロジ

#### 概要

ホスト 1 アプリケーション・サーバー 1  
OC4Jインスタンス 1 HTTPサーバー・インスタンス 1

#### メンバー

表示方法 アプリケーション・サーバー

(起動) (停止) (再起動)

すべて選択 | 選択解除 | すべて開く | すべて閉じる

| 選択                       | 名前                  | ステータス | タイプ                |
|--------------------------|---------------------|-------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> | すべてのアプリケーション・サーバー   |       |                    |
| <input type="checkbox"/> | as101340.Oracle.com |       | アプリケーション・サーバー      |
| <input type="checkbox"/> | home (JVM: 1)       | ↑     | OC4J               |
| <input type="checkbox"/> | HTTP_Server         | ↑     | Oracle HTTP Server |

◆ アクティブなASControlインスタンスを示します。

✓ ヒント 親トポロジ・メンバーを選択すると、含まれるすべてのメンバーが暗黙的に選択されます。

## WebLogic Server

- Administration Console
- 管理サーバにデプロイされたアプリケーション
- <http://<hostname>:<port>/console>

The screenshot shows the Oracle WebLogic Server Administration Console. The top navigation bar includes 'ホーム', 'ログアウト', '環境設定', '記録', and 'ヘルプ'. The main content area is divided into several sections:

- チェンジ センタ**: A section for monitoring and managing changes, with a sub-section for '変更と再起動の表示' (Display Changes and Restart). It contains a message about configuration changes being effective.
- ドメイン構造**: A tree view showing the domain structure, including 'base\_domain', '環境', 'デプロイメント', 'サービス', 'セキュリティ レルム', '相互運用性', and '診断'.
- 操作ガイド**: A section for operational guides, with a sub-section for 'コンフィギュレーションの検索' (Search Configuration).
- ナビゲーション**: A sidebar on the right with 'ホーム' and 'ホーム ページ' sections. The 'ホーム ページ' section includes '情報とリソース' (Information and Resources) and 'ツール' (Tools) with links to 'アプリケーションのコンフィギュレーション', '最近のタスク状態', and 'コンソールの環境設定'. Below this is 'ドメイン コンフィギュレーション' (Domain Configuration) with a link to 'ドメイン', and '環境' (Environment) with links to 'サーバ', 'クラスタ', '仮想ホスト', '移行可能な対象', and 'マシン'.

# 開発ツールについて

- WebLogic Serverは標準仕様であるJavaEE5に完全準拠しているため、JavaEE5のアプリケーションが開発可能な開発ツールを利用できます。
- 下表はオラクルが提供しているWebLogic向け開発ツールです。

| ツール名                  | 概要  |
|-----------------------|---|
| Oracle JDeveloper11g  | JavaだけでなくDB(表設計、編集、PL/SQL等)開発ツール<br>11gより WebLogic Serverに対応し、JavaEE5ベースのアプリ開発が可能。ライセンスは無償。 |
| WebLogic Workshop10.3 | Eclipseベースの開発ツール。JavaEE5ベースのアプリ開発が可能。   |

- OracleAS10gR3は標準仕様であるJ2EE1.4に完全準拠しているため、J2EE1.4のアプリケーションが開発可能な開発ツールを利用できます。
- 下表はオラクルが提供しているOracleAS10gR3向け開発ツールです。

| ツール名                               | 概要  |
|------------------------------------|---|
| Oracle JDeveloper10g<br>(10.1.3.x) | JavaだけでなくDB(表設計、編集、PL/SQL等)開発ツール<br>J2EE1.4ベースのアプリ開発が可能。ライセンスは無償。 |



# アジェンダ

- 製品概要について
- 構成とトポロジについて
- 管理ツールと開発ツールについて
- OracleASからWebLogicへのWebアプリケーション移行について
- Advanced Customer Servicesのご紹介

無償技術サービスOracle Direct Concierge

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# Java各種仕様の対応状況

| OracleAS10g R3     | WebLogic Server11gR1 |
|--------------------|----------------------|
| J2EE1.4            | JavaEE5              |
| 以下は主要仕様の対応         |                      |
| Servlet 2.4        | Servlet 2.5          |
| JSP2.0             | JSP2.1               |
| EJB2.1,(EJB3.0も対応) | EJB3.0               |
| JSF1.1             | JSF1.2               |
| JDBC3.0            | JDBC4.0              |
| JMS1.1             | JMS1.1               |
| JCA1.5             | JCA1.5               |
| JAX-RPC1.1         | JAX-WS2.1            |

**OracleAS10gR3からWebLogic Serverへのアプリケーション移行は  
上記仕様のバージョン間の互換性に依存します。**

# アプリケーションの移行パス一覧

- 当資料では、下表の「Servlet, JSPアプリケーション」について説明します。

| OracleAS                             |   | WebLogic Server11g  |
|--------------------------------------|---|---|
| Servlet, JSPアプリケーション                 | → | Servlet APIやJSP仕様に準拠している限り、原則そのまま移行可能です。<br>(再コンパイルを推奨)<br>ベンダー固有DD利用時はDD書き換え作業が発生する可能性があります。 |
| EJBアプリケーション                          | → | EJB仕様に準拠している限り、原則そのまま移行可能です。(再コンパイルを推奨)<br>ベンダー固有DD利用時はDD書き換え作業が発生する可能性があります。                 |
| mod_plsqlアプリケーション                    | → | Oracle c11gに含まれるWeb Tierコンポーネントである<br>Oracle HTTP Serverで利用可能です。                              |
| Webサービスアプリケーション                      | → | JAX-RPC仕様に準拠していれば、原則そのまま移行可能です。ただし、<br>OracleAS10g固有機能(ログや監査等の設定)は移行できません。                    |
| OracleAS Single-Sign Onを利用するアプリケーション | → | 移行できません。  |
| Oracle Forms, Reportsアプリケーション        | → | WebLogic11gのSuiteで利用可能なForms11gへ移行可能です。   |
| Oracle ADFを利用するアプリケーション              | → | 利用コンポーネントによりそのまま移行できない可能性があります。<br>JDeveloper11gで再コンパイル、テストを実施することを推奨します。                     |

# Servlet, JSPにおける再コンパイルの推奨

- OracleAS10g R3のServletやJSPアプリケーションは、ServletやJSP仕様に準じている限り原則そのままWebLogic Serverへ移行可能ですが、より完全性を期すために、JDK1.6とJavaEE5のライブラリを使用した再コンパイルを行うことを推奨します。
- 再コンパイルを行うことで、互換性の問題や標準外のライブラリやAPIの使用状況を洗い出すことが可能です。
- Oracle JDeveloper11g(ライセンス無償)は、JDK1.6ベースでJavaEE5のライブラリを使用してコンパイルすることが可能ですので必要に応じてご活用下さい。

# 固有のデプロイメント・ディスクリプタについて

- APサーバ製品固有のデプロイメント・ディスクリプタ(DD)名は下表のようになります。

| JavaEEモジュール           | JavaEE標準DD      | OracleAS10g R3<br>OC4J固有DD | WebLogic Server固有のDD     |
|-----------------------|-----------------|----------------------------|--------------------------|
| Webモジュール(WAR)         | web.xml         | orion-web.xml              | weblogic.xml             |
| J2EEアプリケーション<br>(EAR) | application.xml | orion-application.xml      | weblogic-application.xml |
| EJBモジュール(EJB JAR)     | ejb-jar.xml     | orion-ejb-jar.xml          | weblogic-ejb-jar.xml     |

- OracleASで明示的に固有DDに設定を行っている場合、WebLogicで同等の設定があるかを確認する必要があります。
- WebLogic Serverでの固有DDについては、下記をご参照下さい。

## ■XML デプロイメント記述子について

<http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/wls/docs103/programming/overview.html#wp1074201>

## ■weblogic.xmlについて

[http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/wls/docs103/webapp/weblogic\\_xml.html](http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/wls/docs103/webapp/weblogic_xml.html)

## ■weblogic-application.xmlについて

[http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/wls/docs103/programming/app\\_xml.html#wp1064995](http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/wls/docs103/programming/app_xml.html#wp1064995)

# フレームワークについて

- アプリケーションが商用のフレームワークを利用している場合、WebLogic Serverへの移行においては、そのフレームワークがWebLogic Serverに対応しているかを提供元ベンダーにご確認下さい。
- Strutsを利用している場合、Strutsの利用バージョンの動作要件をご確認下さい。例えば Struts1.2.4ではServlet2.2, JSP1.1以降の仕様に準拠した環境が必要になります。Struts2では、Servlet2.4, JSP2.0以降の仕様に準拠した環境が必要になります。WebLogic Serverではこれらの要件は満たしています。
- WebLogic Serverは、Spring2.5.xを統合しています。詳細は下記をご参照下さい。
- <http://www.oracle.com/technology/global/jp/pub/articles/dev2arch/2008/07/spring.html>

# クラスタ環境でHttpSessionレプリケーションを行うアプリケーションについて①

- OracleASのクラスタでHttpSessionレプリケーションを行うアプリケーションをWebLogic Serverに移行する場合、下記に留意する必要があります。
- WebLogic Serverで HttpSessionレプリケーションを行うには、固有DDであるweblogic.xmlにレプリケーション設定を記載します。  
詳細は下記をご参照下さい。

<http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/wls/docs103/webapp/sessions.html>

## ■weblogic.xml HttpSessionのインメモリ・レプリケーション設定例

```
<session-descriptor>  
  <persistent-store-type>replicated</persistent-store-type>  
</session-descriptor>  
</weblogic-web-app>  
<persistent-store-type>replicated_if_clustered</persistent-store-type>
```

# クラスタ環境でHttpSessionレプリケーションを行うアプリケーションについて②

- OracleASのクラスタ上のHttpSessionレプリケーションを行うアプリケーションは、レプリケートのタイミングや同期・非同期を指定することが可能でしたが、WebLogic Serverではこれらを指定するパラメータはありません。
- WebLogic Serverでのレプリケートは、Servletのservice()メソッドを抜けるタイミングで同期されます。

OracleASからWebLogic Serverへの移行において、クラスタでレプリケーションを利用するアプリケーションが存在する場合、レプリケート・タイミングの設定や要件についてご確認いただき、上記の差異が許容可能かなど、移行の妥当性を事前にご確認下さい。



# アジェンダ

- 製品概要について
- 構成とトポロジについて
- 管理ツールと開発ツールについて
- OracleASからWebLogicへのWebアプリケーション移行について
- **Advanced Customer Servicesのご紹介**

無償技術サービスOracle **Direct Concierge**

- SQL Serverからの移行アセスメント
  - MySQLからの移行相談
  - PostgreSQLからの移行相談
  - Accessからの移行アセスメント
- Oracle Database バージョンアップ支援
- Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
  - パフォーマンス・クリニック
  - Oracle Database 構成相談
- Oracle Database 高可用性診断
  - システム連携アセスメント
  - システムセキュリティ診断
  - 簡易業務診断

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE

# Oracle Advanced Customer Services

**ORACLE®**

**ADVANCED CUSTOMER  
SERVICES**

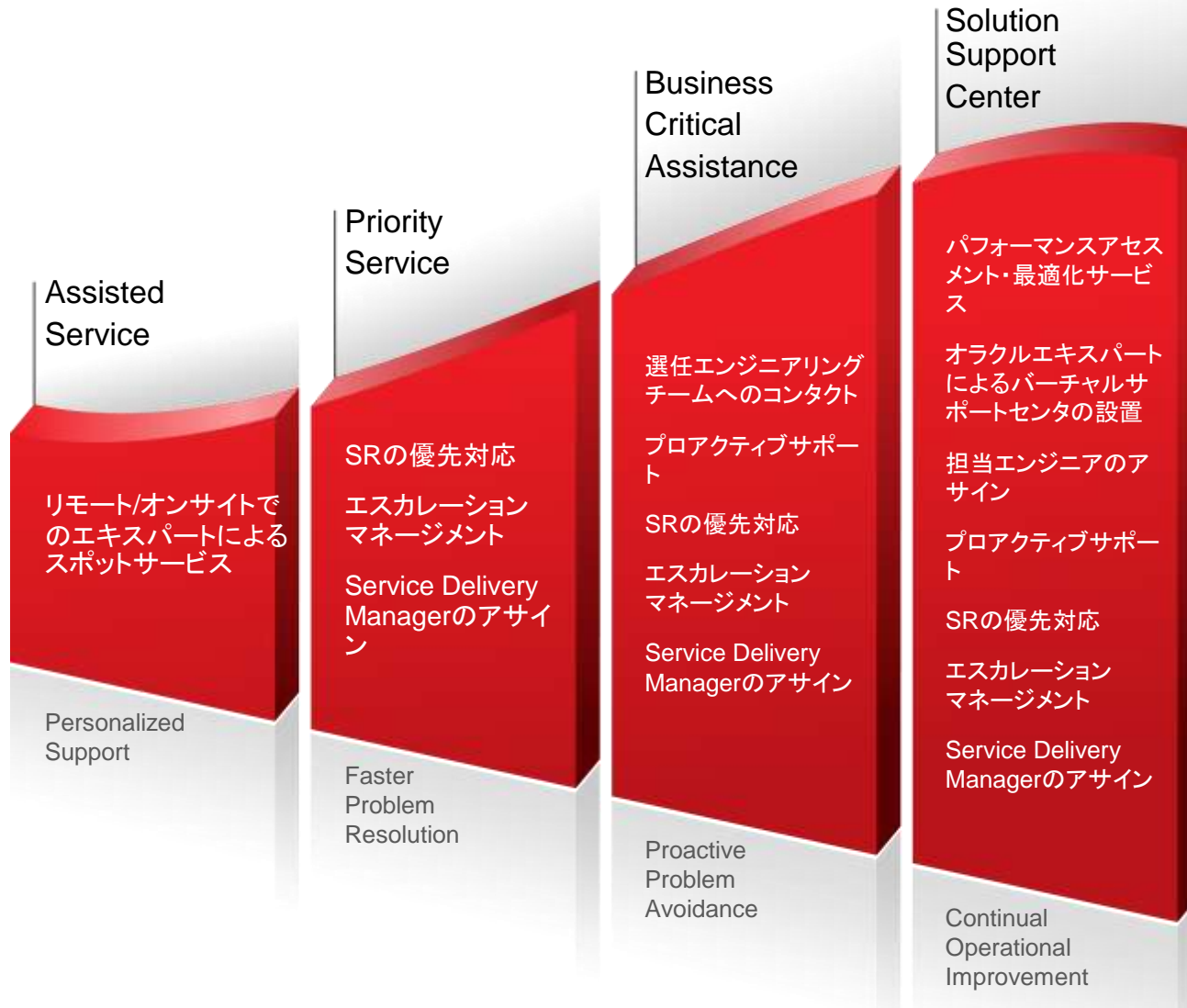
**ORACLE®**

**FUSION MIDDLEWARE  
WEBLOGIC**

- Oracle Advanced Customer Serviceはミッションクリティカルなシステムを持つお客様に対して、オラクルが提供できる有償特別サポートサービスとなります。
  - お客様のプロジェクトに対して、Service Delivery Managerを主軸とする専用のサポートアカウントチームを編成し、オラクルのエキスパートがお客様システムの運用保守を支援します。
  - Service Delivery Managerはお客様から見たオラクルのサポートへの直接の窓口となります。あらゆる障害や問い合わせに対して迅速に対応します。
  - 月次の定例会などを持つことで、プロジェクト担当者様と密に連携いたします。また、オラクル製品の重要障害情報なども事前に提供することで、システムの安定稼働を図ります。

**ORACLE®**

# ACS packaged service offerings



ORACLE

# Main ACS packaged services

- Business Critical Assistance (年間契約サービス)
  - Service Delivery Managerのアサイン
  - エスカレーションマネジメント、シチュエーションマネジメント
  - プロアクティブサポート
  - 選任エンジニアリングチームのアサイン
  - 月次定例、SR棚卸、よろず相談
- Assisted Service (スポットサービス)
  - オラクルのエキスパートによるスポットサービスの提供
    - パフォーマンス・アセスメント提供
    - コンフィグレーション・アセスメント提供
    - オンサイトでの障害対応サービス

# リンク & お問い合わせ先

## ACS Webサイト:

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/advanced-customer-services/index.html>



## Oracle Database

| サービス名  | サービス概要  |
|--|---|
| <b>DB Performance Assessment</b><br>Oracle Database の性能問題<br>分析パッケージ         | スピーディなポイントインタイムデータベース性能の問題分析/結果をご提供し、ボトルネックの有無および解消方法を提案します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 基幹システムの定期診断</li><li>•バージョン・アップ後の性能確認</li><li>• 障害のバックアップ中/非中 曜日など、過去のクラッシュアクション時における監視</li></ul>   |
| <b>DB Upgrade Assessment</b><br>Oracle Database 11g のアップグレード<br>支援パッケージ      | アップグレードに伴う様々なリスク対策の一環として、事前にお客様のシステムの現状を調査分析、アップグレード中の問題発生を未然防止に不可欠な情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 適用すべき One-off パッチを調査し、デグレードなどを未然防止</li><li>• アップグレードの前にシステム環境をしっかりと把握し、タイムリーな情報を活用することで、リスクの回避策を講じる</li><li>• お客様に関連するおしらせ/通知の替換を精査し、アップグレード後のトラブルを回避</li></ul> |
| <b>DB Real Application Testing Service</b><br>Oracle Database 負荷状況分析<br>サービス | Oracle Database 11g の新機能である Real Application Testing の利点を活用し、従来のアップグレード事前検証では困難だった実際のワークロードに対する高精度なシミュレーションテストを実施します。これによりアップグレードに伴う様々なリスクを事前に回避するための詳細な分析レポートを提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• データベースリプレイによって、本番環境の全ワークロードをテスト機で再生し、アップグレード後の負荷を確認</li></ul>           |

お問い合わせ先:

ACS営業部 [acs-sal\\_jp@oracle.com](mailto:acs-sal_jp@oracle.com)

# OTN×ダイセミ でスキルアップ!!



- ・一般的な技術問題解決方法などを知りたい!
- ・ 세미나資料など技術コンテンツがほしい!

Oracle Technology Network(OTN)を御活用下さい。

<http://otn.oracle.co.jp/forum/index.jspa?categoryID=2>

一般的技術問題解決にはOTN揭示版の  
「Oracle WebLogic Server」をご活用ください

※OTN揭示版は、基本的にOracleユーザー有志からの回答となるため100%回答があるとは限りません。  
ただ、過去の履歴を見ると、質問の大多数に関してなんらかの回答が書き込まれております。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/ondemand/otn-seminar/index.html>

過去のセミナー資料、動画コンテンツはOTNの  
「OTNセミナー オンデマンドコンテンツ」へ

※ダイセミ事務局にダイセミ資料を請求頂いても、お受けできない可能性がございますので予めご了承ください。  
ダイセミ資料はOTNコンテンツ オン デマンドか、セミナー実施時間内にダウンロード頂くようお願い致します。

ORACLE

# OTNセミナー オンデマンド コンテンツ

期間限定にて、ダイセミの人気セミナーを動画配信中!!

ダイセミのライブ感はそのままに、お好きな時間で受講頂けます。

最新のコンテンツ

|                               |   |                                   |                                  |
|-------------------------------|---|-----------------------------------|----------------------------------|
|                               |   |                                   |                                  |
| エンジニアのためのITIL実践術<br>再生時間: 60分 | ここからはじめよう<br>Oracle PL/SQL入門<br>再生時間: 60分 | 実践!!高可用システム構築 -RAC基本<br>再生時間: 60分 | お悩み解決! Oracleのサイジング<br>再生時間: 60分 |

Database

|                                    |  |                              |  |
|------------------------------------|--|------------------------------|--|
|                                    |  |                              |  |
| 今さら聞けない!!バックアップ-リカバリ入<br>再生時間: 60分 | 意外と簡単!?! Oracle Database 11g -セ<br>再生時間: 60分 | 実践!!バックアップ-リカバリ<br>再生時間: 60分 | 意外と簡単!?! Oracle Database 11g -デ<br>再生時間: 60分 |

>> もっと見る

OTN オンデマンド

検索

※掲載のコンテンツ内容は予告なく変更になる可能性があります。

期間限定での配信コンテンツも含まれております。お早めにダウンロード頂くことをお勧めいたします。

ORACLE

# オラクル クルクルキャンペーン

あの**Oracle Database Enterprise Edition**が超おトク!!

おトクな買い方  
**オラクル5年分**

- ライセンス使用期間 を**5年**間に設定
- 初期のライセンスコストがなんと**67%OFF** !
- テクニカル・サポート価格も**53%OFF** !

**Enterprise Edition**はここが違う!!

- 圧倒的な**パフォーマンス!**
- データベース**管理がカンタン!**
- データベースを**止めなくていい!**
- もちろん**障害対策**も万全!

詳しくはコチラ

<http://www.oracle.co.jp/campaign/kurukuru/index.html>

Oracle Direct 0120-155-096 

お問い合わせフォーム

[http://www.oracle.co.jp/inq\\_pl/INQUIRY/quest?rid=28](http://www.oracle.co.jp/inq_pl/INQUIRY/quest?rid=28)

Oracle Databaseの  
ライセンス価格を**大幅に抑えて**  
ご導入いただけます

- 多くのお客様でサーバー使用期間とされる  
5年間にライセンス期間を限定
- 期間途中で永久ライセンスへ差額移行
  - 5年後に新規ライセンスを購入し継続利用
  - 5年後に新システムへデータを移行

この部分を  
お支払い

**67%  
OFF** ※2

Oracle Database

この機能でこの価格  
**ライセンスパック**

- Oracle Databaseの機能を**存分に使える!**
- **2ノードRAC**構成も可能!
- サーバー構成によって計**4種類**のパックから**選べる!**

ORACLE



あなたにいちばん近いオラクル



# Oracle Direct

まずはお問合せください

システムの検討・構築から運用まで、ITプロジェクト全般の相談窓口としてご支援いたします。

システム構成やライセンス/購入方法などお気軽にお問い合わせ下さい。

## Web問い合わせフォーム

専用お問い合わせフォームにてご相談内容を承ります。

[http://www.oracle.co.jp/inq\\_pl/INQUIRY/quest?rid=28](http://www.oracle.co.jp/inq_pl/INQUIRY/quest?rid=28)

※フォームの入力には、Oracle Direct Seminar申込時と同じログインが必要となります。

※こちらから詳細確認のお電話を差し上げる場合がありますので、ご登録されている連絡先が最新のものになっているか、ご確認下さい。

## フリーダイヤル

**0120-155-096**

※月曜～金曜 9:00～12:00、13:00～18:00

(祝日および年末年始除く)

ORACLE



以上の事項は、弊社の一般的な製品の方向性に関する概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。以下の事項は、マテリアルやコード、機能を提供することをコミットメント(確約)するものではないため、購買決定を行う際の判断材料になさらないで下さい。オラクル製品に関して記載されている機能の開発、リリースおよび時期については、弊社の裁量により決定されます。

OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録 商標である場合があります。